

被災者同士 ネットワーク支援

地震が起きるまで、福島県いわき市で祖父(80)と母(56)、弟(26)と暮らしていました。家族全員が助かりましたが、自宅は津波で流され、放射能への不安もあって県外に避難しました。仕事や家族全員で暮らせる家を探そうと、私は大学時代の友人が多い大阪へ、他の家族は東京の知人宅に身を寄せました。

ふるさとへの思いが特に強い祖父の意向で、2か月後、私以外の家族は福島に戻りました。これから家族で話し合わなければなりません、私はできれば、いつか家族を大阪に迎えたいと思い、頑張っています。

被災するまで、私は公務員を目指し、就職浪人中でした。母や弟も震災で仕事を失い、先行きが見えない中、大阪の友人たちには本当に助けられました。「生きていてくれただけでうれしい」と言われた時には本当に感動しました。

3月下旬から、友人の母親が営む貸しギャラリーに勤めていますが、勤務中に着るスーツも、友人の援助で買いました。今は市営住宅を借りて、何とか暮らしています。

大阪にいたいと願う理由は、仕事だけではなく、被災者の支援活動を始めたいと考えているからです。目指すのは、関西に避難する被災者同士のネットワーク作り。被災者の孤立を防ぎたいのです。大勢の人が集まるギャラリーのような場所は、そういうネットワーク作りにぴったり。被災した寺社、あるいは牛やペットなどの写真展を開いていくつもりです。

ともに活動できる仲間をツイッターで募っています。生き残った被災者同士、頑張っていきたいと思っています。

(2011年10月13日 読売新聞)



被災者同士のネットワーク作りを目指す遠藤さん
(大阪市中央区で)

GALLERY

Voluer

Awaji-machi Osaka Japan

遠藤 雅彦

Masahiko Endo

ギャラリー ボルベール

大阪市中央区淡路町3丁目4-13

東和ビル1F 〒541-0047

tel:090-6852-7321

e-mail: speedy.speedy.2@ezweb.ne.jp

11:00~19:00 月曜休廊